

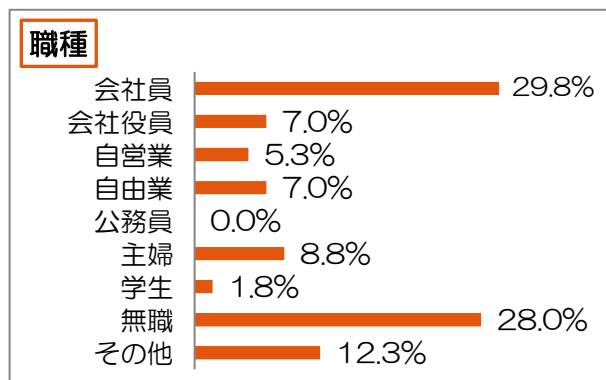
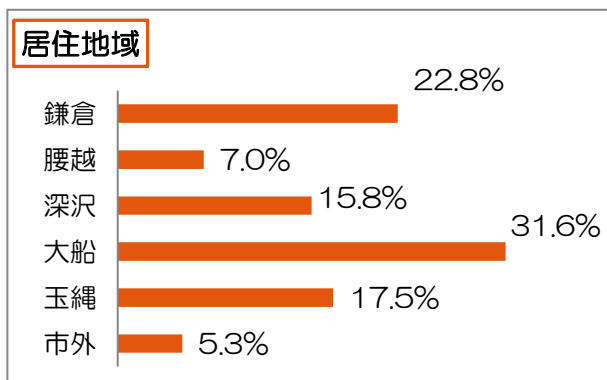
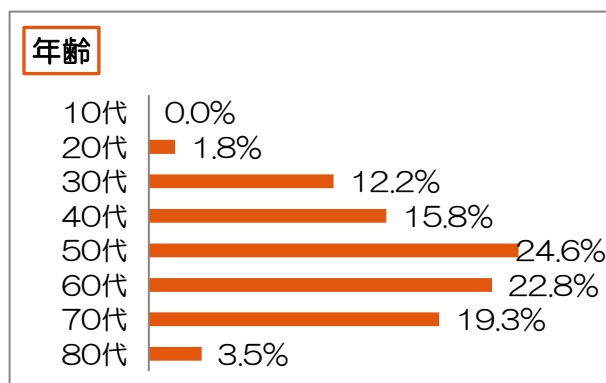
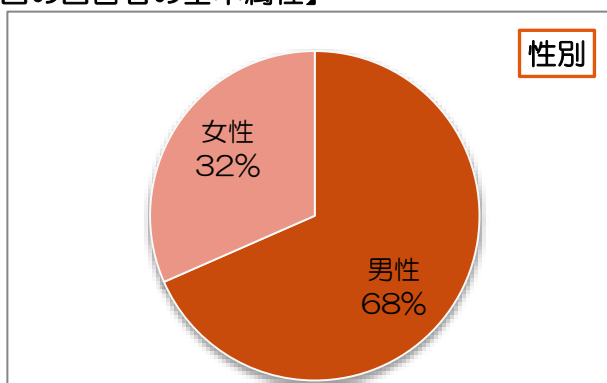
第37回 市政e-モニターアンケート 「障害者の福祉について」 最終結果

【テーマ】障害者の福祉について

【目的】本市では「障害のある人もない人も、だれもが一生にわたり、健やかで安心して地域で暮らせるまち」を将来目標として、「第2期鎌倉市障害者基本計画」を基に障害者に関する施策を推進しています。
平成30年度からの新しい計画策定の参考とさせていただくために、日ごろ皆さんが障害者福祉についてどのような知識、お考えをお持ちであるのか、お伺いします。

- ◆ アンケート送信日 : 平成29年8月1日（火曜日）
- ◆ 実施期間 : 平成29年8月1日（火曜日）～8月13日（日曜日）
- ◆ 送信者数 : 440 名（着信者数 417名）
- ◆ 回答者数 : 138 名
- ◆ 回答率(対着信者数) : 33.1%（前回より -7.7ポイント）

【今回の回答者の基本属性】



※基本属性は8月7以降に回答いただいた人のみの集計です。
それ以前に回答いただいた方の属性は取得することができませんでした。申し訳ございません。

【質問1】（必須）あなたは、障害のある方とどのような関わりを持ったことがありますか。（複数回答可）

【質問1】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

「職業・指導的立場」

- 5年前まで特例子会社で知的障がい者の採用、研修、指導等を行っていた。
- 障がい者の雇用促進のための特例子会社の経営に携わったことがある。
- 過去に福祉関連の仕事をしていた。
- 精神科の診療所で働いています。
- 支援事業所でパートとして仕事をしたことがある。
- 発達障害・知的障害を持つ子どもたち向けのサッカークラブの運営。
- あしおとでつながろう！プロジェクト（ダンスで身近な社会を変える試み）／かまくらファンド助成、横浜市芸術文化振興財団インクルーシブ活動助成。

「障害者と共生する環境」

- サークル活動の中に軽度（？）の障害者がいる。
- 職場で。
- 職場に障害のある方が複数いる。
- 障害について学ぶなど。
- 市民後見人養成講座において学習し理解を深めました。
- 障がいを持つ方と健常者の街歩きイベントに参加した。
- 障害のある方々の施設でのボランティア演奏や差し入れ、寄付を致しました。
- 関心があるが、具体的なアクションを取った事はありません。お手伝いをしても良いか不安です。新聞の記事で、白杖者の方が、杖を上にあげているのは、助けを求めている合図だという事を知りました。

「その他」

- 本人も障害者。

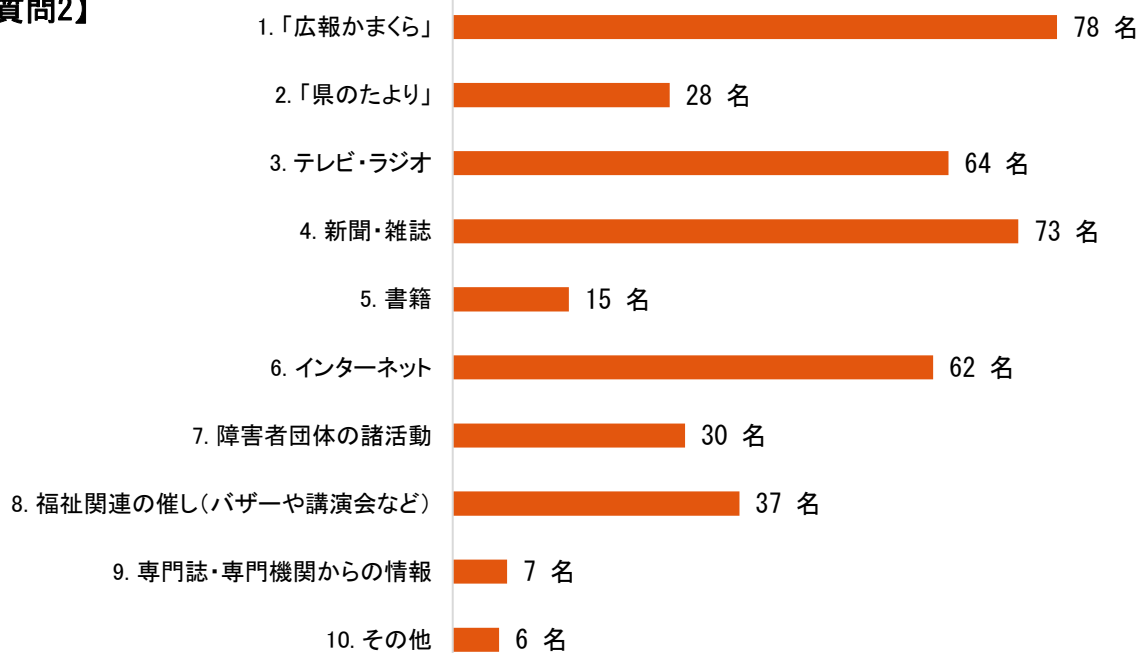
【障害者福祉課より】

障害のある方が作った商品の購入、障害のある方が働いているお店の利用が障害のある方との接点となっている方が多いことが分かりました。一方、障害のある方と関わりを持つ機会がないという回答もありました。



【質問2】（必須）あなたは、どのような手段で障害者福祉に関する情報を見聞きしていますか。（複数回答可）

【質問2】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

- 大学で社会福祉学科。
- 職場の患者さんや関連機関から。
- 鎌倉市発達支援室。
- 市民団体「笑ん座の会」。
- 当事者から直接。
- 鎌倉市の協議会、委員会に参加していますので、常時情報には触れています。
- 義務教育現場での実情認識（入学式＆卒業式）を得ました。

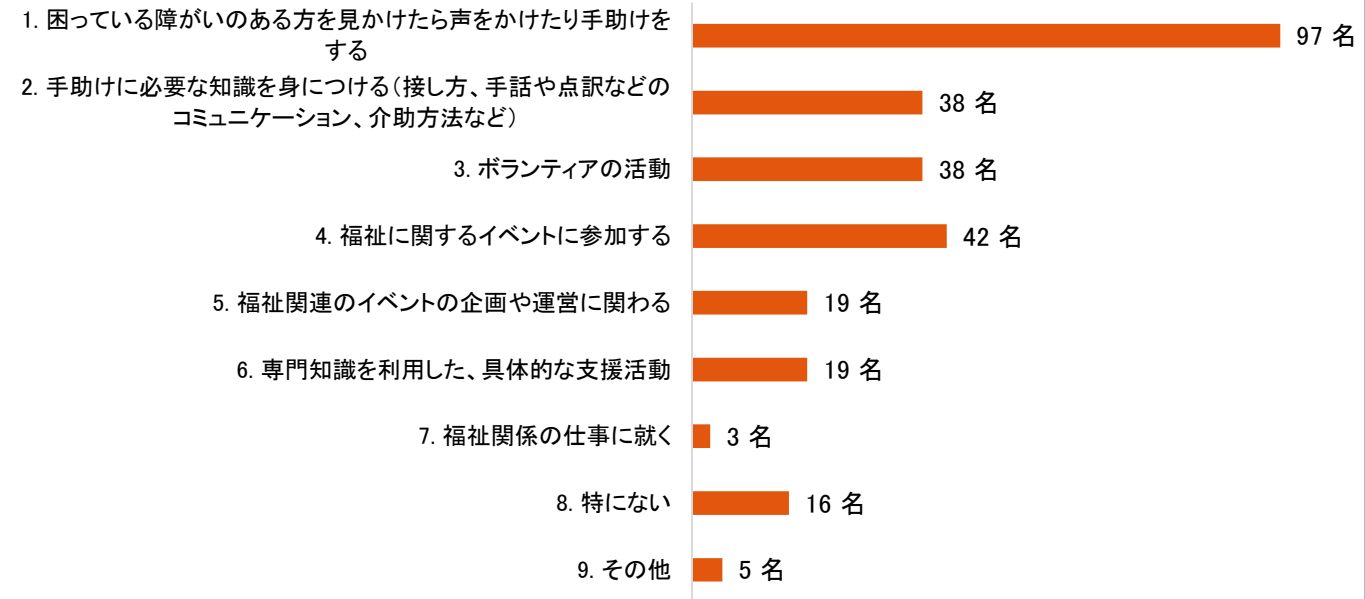
【障害者福祉課より】

障害者福祉に関する情報は、広報かまくら、新聞・雑誌、テレビ・ラジオ、インターネットといった媒体から情報を見聞きしている方が多いことが分かりました。これらの媒体を有効に活用して情報発信を行っていききたいと思います。



【質問3】（必須）機会があれば、あなたはどのような活動をしてみたいと思いますか。（複数回答可）

【質問3】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

- 障害者の為に、市内をバリアフリーにするべきで、問題点を解決し、障害者の方が出来るだけ自立し、自活できる体制を整えるべきだ。
- 共に生きる、を意識して普段から接している。高齢者や病気の人も同じ。特段障害者として意識していない。
- 募金。
- 障がい者と一緒に働く民間団体「i-link-u」などと一緒に活動したい。
- バリアフリービーチに参加したい。

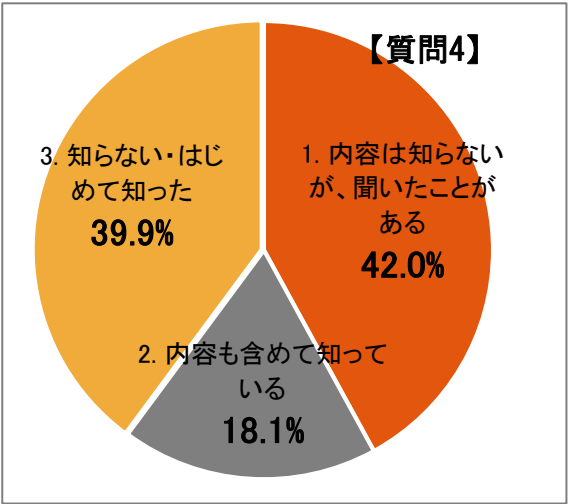
【障害者福祉課より】多くの方が、困っている場面を見かけたら、声をかけたり手助けをしたいと考えていることが分かりました。

【質問4】（必須）平成25年6月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が成立し、平成28年4月に施行されました。あなたはこの法律のことを知っていますか。

1. 内容は知らないが、聞いたことがある	58 名
2. 内容も含めて知っている	25 名
3. 知らない・はじめて知った	55 名
合計	138 名

【障害者福祉課より】

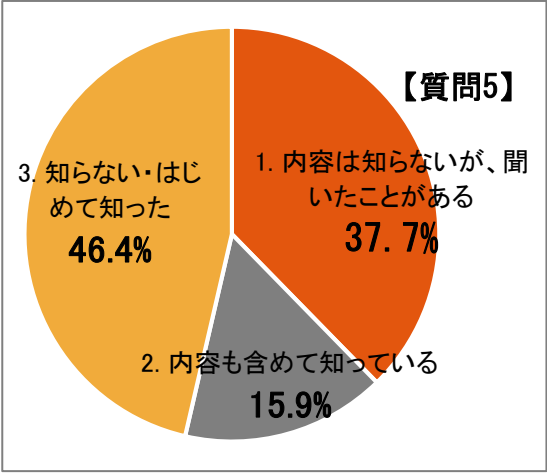
障害者差別解消法について、より多くの方に知っていただけるよう、普及・啓発を行っています。



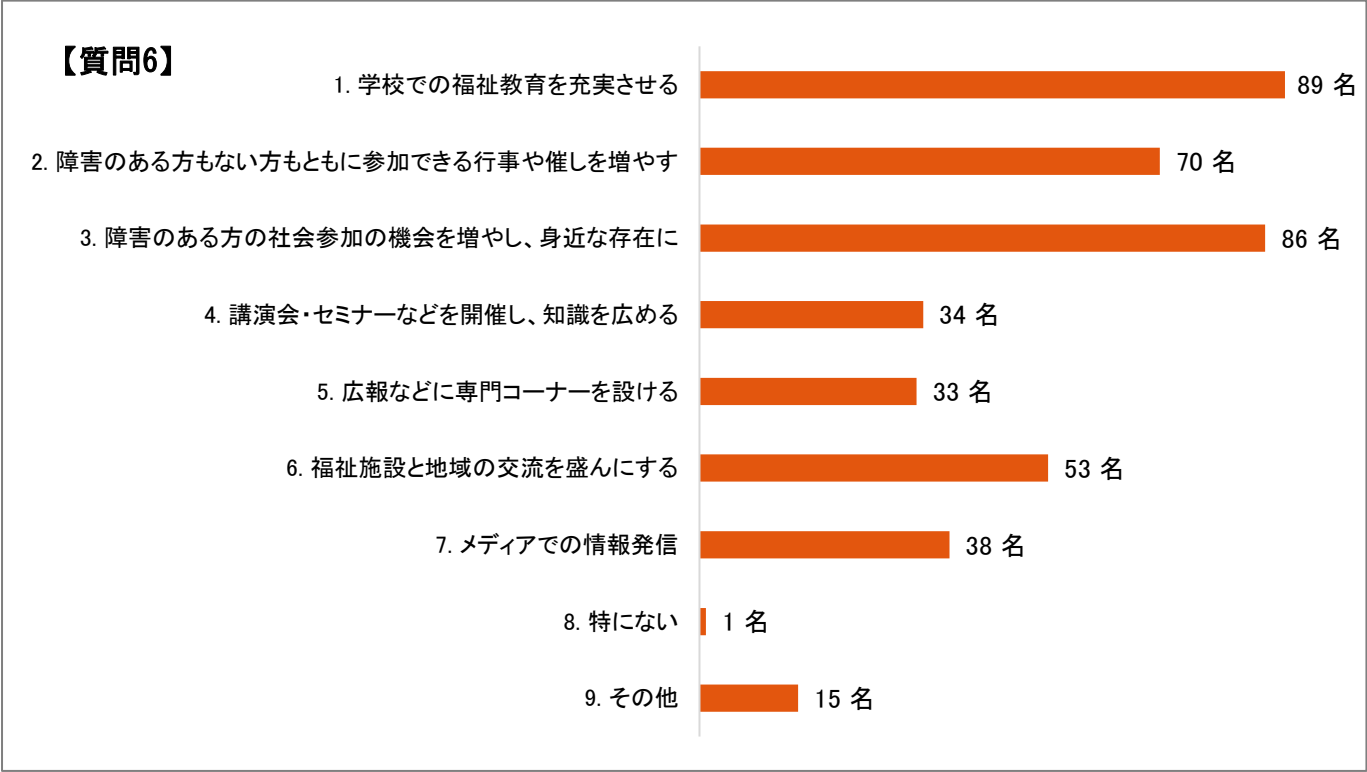
【質問5】（必須）平成24年10月に「障害者虐待の防止、障害者の擁護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）」が施行されました。あなたはこの法律のことを知っていますか。

1. 内容は知らないが、聞いたことがある	52 名
2. 内容も含めて知っている	22 名
3. 知らない・はじめて知った	64 名
合計	138 名

【障害者福祉課より】
障害者虐待防止法について、
より多くの方に知っていただ
けるよう、周知を行っていきます。



【質問 6】（必須）社会全体として、障害のある方への理解が深まるためにはどのような方法が有効だと思いますか。
（複数回答可）



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

【共に暮らす環境づくり】

- 子どもの頃から接する機会を作る。
- 囲わないでごちゃまぜにする。
- 特にインクルーシブ教育、障害者を同じクラスで学ばせることで子どものうちから障害者と共に過ごすことが重要。
- 市立小学校など、子どもたちが日常的に障害のあるお友達と過ごす時間を増やす。
- 幼児から障害がある人と暮らすユニバーサルデザインの社会にする。
- 幼稚園・保育園・小中学校の同じ教室で遊び、学ぶ。
- 高校生が障がい者や高齢者施設でのインターンシップを行う。
- 認知症、病気などで障害を持った家族や親族への接し方を通して、子ども・若者に障害のある方への理解を家庭で教

育する。また、祖父母など年長者への尊敬の態度を通して、弱者へのいたわりを教える。

- 人への思いやり教育。おのずと障害教育につながる。
- 健常者がボランティアに参加することのインセンティブを用意する。

【その他】

- メディアの力は大きいと思います。
- 議員の方々の意識も大切だと思います。
- 1から7まですべて有効と思われます。
- 知的から身体までいろいろある。それぞれ障がい者のレベルによるのでは。単純な話ではない。
- 受け入れる側の意識が薄いと難しい。
- 鎌倉駅では、プラットホームの柵を設置するべき。具体的な計画は？
- 障害の害って人間の害ですか？なんか良い言葉がないのかな？

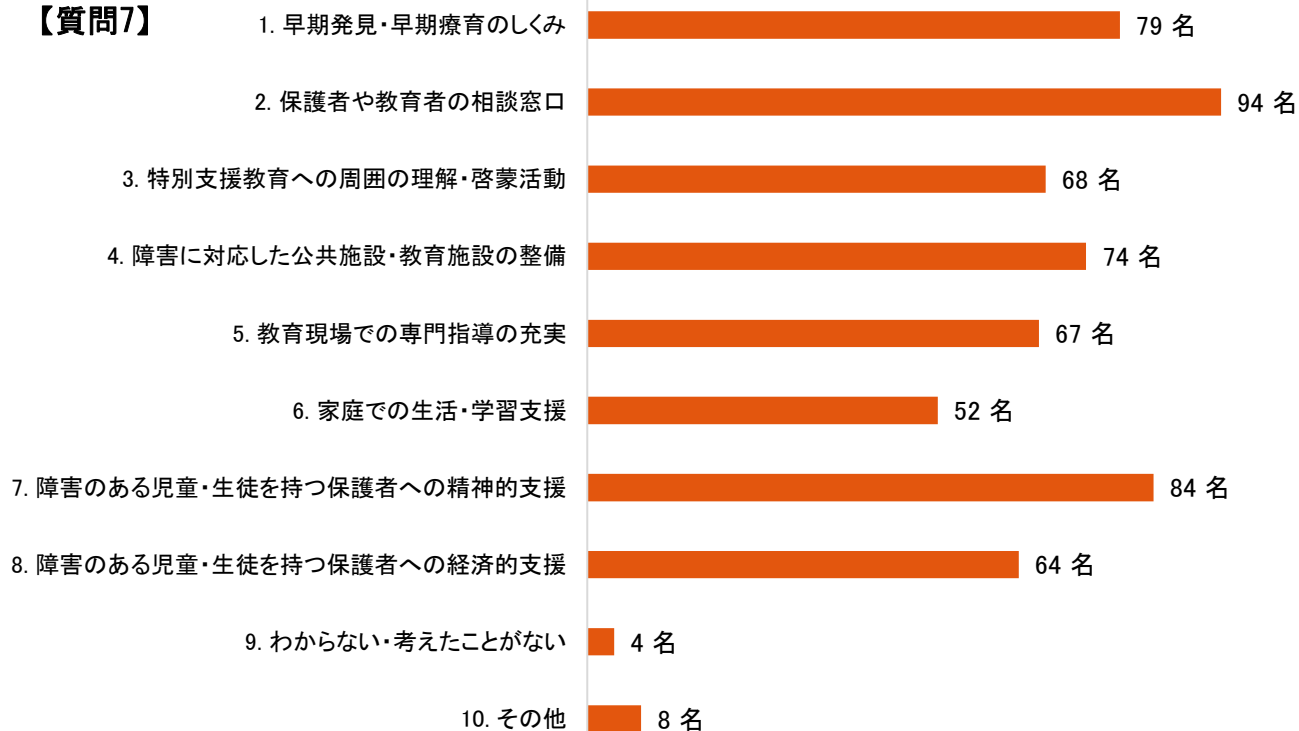
【障害者福祉課より】

障害のある方の社会参加の機会や障害のある方もない方もともに参加できるような催しなどを通じて、お互いが身近な存在になっていけるような施策を行っていきます。



【質問 7】（必須）障害のある児童・生徒の教育に関して、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

【質問7】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

- 特別扱いしない。
- ごちゃまぜで共存させることで他の子どもたちも成長する。
- 障害あるなしが関係ない教育。
- 障害があろうがなかろうが、個人の能力に合わせた教育ができる体制を整える。
- 専門知識のある支援員の増員。
- 義務教育までは、どの学校でも同じ教育が受けられる体制（フィンランドのように）。
- 障害や障害者の方の暮らし、そして人権について、幼い頃からの教育や知識が必要である。学校教育の充実を期待する。
- 講演会などを通して保護者の教育も必要である。
- 正しい知識なくして、交流会などを開いても、参加する人は限られる。
- 障害のある児童・生徒を持つ保護者への啓蒙。
- 1から8まですべて必要と思われます。
- 研究の発達により何々障害と決めつけてしまう恐ろしさを感じる。
- 個性といえる障害を障害者にしたくない。

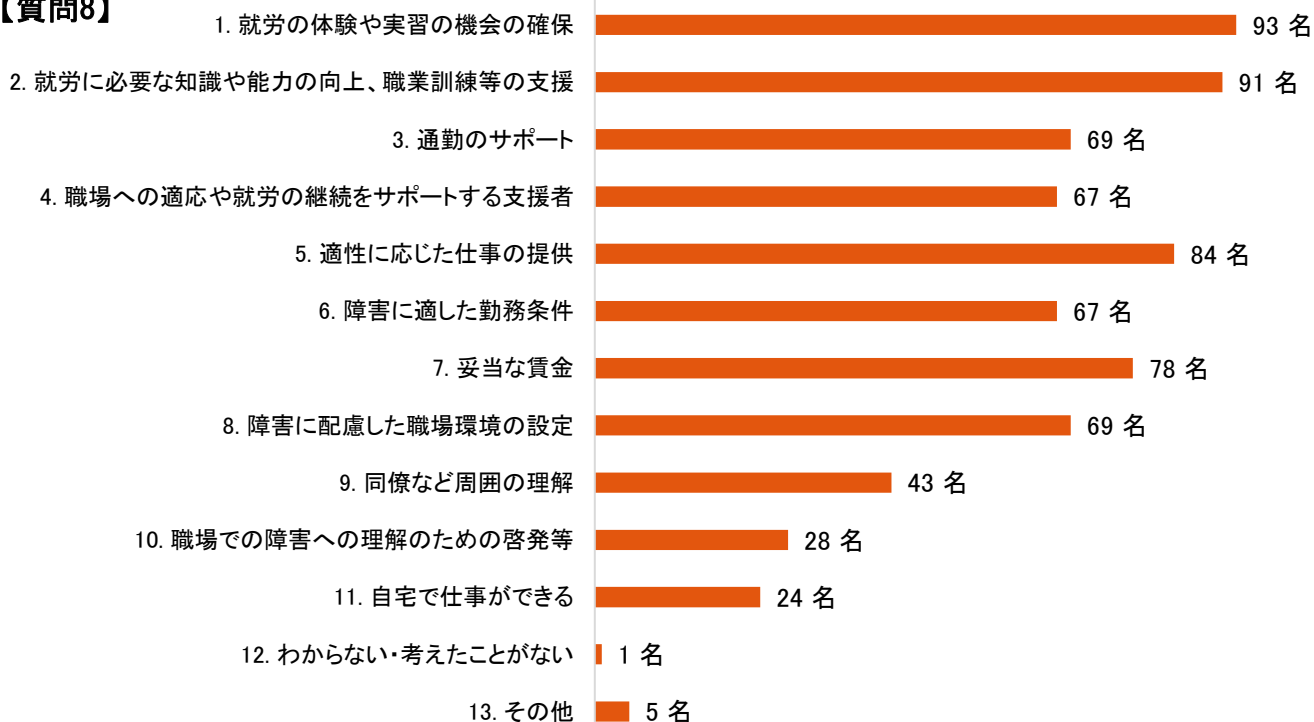
【障害者福祉課より】

相談支援体制の充実など、こどもみらい部や教育部とも連携をしながら取り組んでいきます。



【質問 8】（必須）現在、障害のある方への就労支援施策が推進されています。あなたは、障害のある方が働くためにどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

【質問8】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

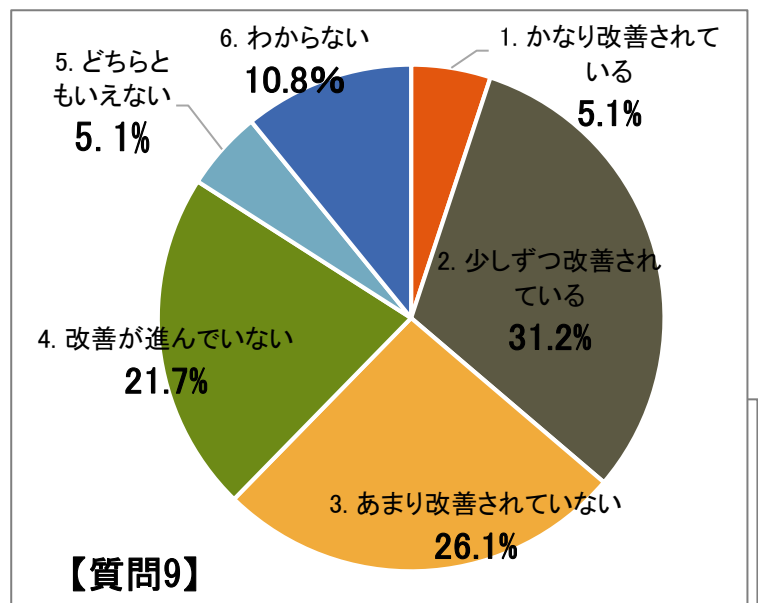
- 1から11まですべて必要と思います。
- 人の手を借りなければ生きていけないが、どんな仕事ができるだろう？

【障害者福祉課より】

学校や就労支援事業所、企業等との連携を深めるとともに、就労体験や実習機会の確保など必要な施策を推進していきます。

【質問 9】（必須）あなたから見て、鎌倉市は公共施設などのバリアフリーが進んでいると思いますか。（複数回答可）

1. かなり改善されている	7 名
2. 少しずつ改善されている	43 名
3. あまり改善されていない	36 名
4. 改善が進んでいない	30 名
5. どちらともいえない	7 名
6. わからない	15 名
合計	138 名



【質問 10】 今後、鎌倉市が推進する障害福祉施策について、どのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。

ご意見、ご要望をご記入ください。（自由記載）

※同様のご意見は集約しています。

【バリアフリーに関して】

- 江ノ電や公共施設のバリアフリー化。
- 駅や公共施設でのバリアフリーの改善。
- 公共機関、特に駅構内プラットホームのバリアフリー化。
- バスや電車などのバリアフリー化。
- 障害に対応した公共施設・教育施設の整備。
- 公立学校のバリアフリー化。
- 公共施設などのバリアフリー化の加速。
- 啓蒙・教育と市の施設のバリアフリー化をお願い致します。

- 観光施設、商業施設におけるバリアフリー化と啓蒙。
- 道路や商業施設などのバリアフリー化の推進。
- 心身ともに健康に過ごせるための第一歩として、移動の支援に力を入れて欲しい。路線バスや駅のバリアフリー化は必須、また、江ノ電や湘南モノレール等、市内の中小民鉄でホームドア以前のレベルで立ち遅れている安全水準を改善するため、無人駅で電車接近表示機と接近案内放送を行ってほしい。障害者でも安全に利用できる交通を実現するため、公共交通事業者に対し、支援制度の創設など力をいれるべき。
- 市の事業ではないかもしれませんが、JR北鎌倉駅は狭隘な敷地でよくあれだけのバリアフリーが出来たと感心しています。良い事例として積極的に紹介してはいかがでしょうか。
- 歩道の高低や段差の解消、電柱の地中化が先だ！
- 点字ブロック、段差の解消、障害者パーキングの拡充など。
- エレベーターの設置や段差をなくすなど、小さな工夫がもう少し増えればいいかと思います。
- 市役所のドアが、障害のある方には不便のような気がします。
- 深沢行政センター、大船行政センター、腰越行政センターの洋式トイレを増やしてください。特に深沢は暗く、裏の方にあり人の目が届きにくいので、明るく、窓やドアを広くしてほしいです。
- 障害者の施設で就労していたことがある私自身が不便に感じたことは、外出したときに、トイレが少ないことです。観光客も多くなっていることも考慮して、市の清掃員が巡回して安全に清潔に使えるようなトイレを設置してもらえたらと思います。有料トイレでもいいと思います。清掃などを徹底すれば、有料でもいいのではと思います。
- 視覚障害者誘導用ブロック（ある所と無い所等、中途半端な事をしない）や、バリアフリーなど、身近な所での対応が必須だと思います。
- 道路の通行がすでに不可能。車いすで歩道を通れるように、可能な限り働きかけてほしい。
- 障害福祉施策に限ったことではないのですが、まち全体が歩行者のための歩道になっていない。具体的には、自転車道になっている。自転車は、マナーも悪いし信号無視。殊に、鎌倉駅前は大変な状況。特に障害を持った方々にとっては、外出を阻害する要因になっているのではないのでしょうか。
- もともと道路が狭い等、慢性的なまちの問題があるのでインフラ面の改善がなかなか進まないのは、やむを得ないところもある。
- 鎌倉は神社仏閣などが多くあり、観光客や参拝者など多くの方が訪れます。それだけに、障害者の方々やお子さん、年配者にも気軽に来られるようにしていただきたい！この事は前にも送らせていただいたかもしれませんが、全く優しいまちになっていない！何も改善されていない！とても、悲しい実情です！
- 健常者による土日の自家用車での観光の制限。
- 障害のある人と接する機会を増やせるようにする。障害のある人も出かけやすい、参加しやすい環境を整える。
- ノンステップバスをはじめとする、誰でも安全に暮らせるバリアフリー化を進めることがまず大事かと思われます。
- 障害者（含む、老人）が安心・安全に歩ける歩道環境の向上。
- 身体の悪い人も憩いのまち鎌倉を訪ねて癒されると良いと思うが、バリアフリーの点で凸凹な道を含め気になる点が多い。特に適切な移動手段が無く、障害者も介助者も行って疲れる様なまちになってしまっている様な気がする。倉敷や神戸のような限定された範囲の中でも良いから、気兼ねなく訪れ癒される街区の整備ができないだろうか？
- 推進する施策の成果に敏感に対応し、速やかに次の施策を講じる。
- 公共施設などのバリアフリー化の推進。
- 健常者と同じように行動できるバリアフリー化は、全くできていないと感じます。
- 海岸の清掃などを定期的に行うなど。

【PR・情報発信について】

- 広報活動を活発化し、一般市民が協力、支援できる内容の情報発信をする。
- 市として政策を進めているなら、計画の明示と、市民に理解を求める、広報活動の充実。
- 市役所・広報など、誰もが目を通しやすい場所に宣伝強化。
- 地域包括センターの活動をPRする必要があります。
- 理解を広げるため、参考となるような各種ホームページを利用し、啓蒙活動を行う。

- 障害者の人数が分かりませんので、それに対する対策の「程度」が言えません。対策が高度であればあるほど人手や費用がかかると思いますので、バランスが大事だと思います。それを補うのは周囲の人の気配りで、その為のPRは必要です。それと、障害者の方々が感謝する「事例」を広報していただければと思います。
- 何処にも相談先のないご家族の場合など、まず公共機関に相談されると思いますが、そこに情報があまりなく、ご案内ができないことが多いのではないかと気が少ししています。小生が運営しているクラブへの問合せも、「友人の伝手で知った」方が未だ上位を占めており、困っているご家族の相談先が少ないか、情報源がないのでは？と感じております(当クラブはかまくら子育てネットには登録しています)。

【啓蒙・啓発について】

- 市職員への障害理解のための啓発。
- 啓蒙活動そのものについて、鎌倉市がどのように取り組みをしているのか見聞きしたことがありません。
- 保護者は障害の有無がわかっても、その先のイメージがわからない。そのため、希望や将来へのビジョンが持ちにくく、すべてを抱え込みがち。特に、障害そのものや障害のある子の子育てに関して、保護者以外の人はいじわるではないにせよ、自立などに対して関心は薄いように感じる。福祉に接点の少なかった高齢男性を中心にその傾向があるように思う。特定の社会福祉法人の運営不備を全体の傾向ととらえて、法人や支援者を胡散臭いと思ったり、障害は親の責任ととらえたり、福祉の利用をする位と考えたり。障害者福祉全体を地域に理解してもらい、関心を持ってもらうことと、抱え込んでいる保護者を支え、在宅福祉支援を厚くする必要があると思う。
- 実態を公表すること。どういう障害を持つ人が何人いるのか？など。
- 障害の特有な部分をことさら強調することが、差別や逆差別の温床になるのではないかと危惧しています。障害者独特の弱い部分を社会全体でフォローすることはもちろん大切ですが、それ以上に健常者と共通する部分にフォーカスして、強みは活かし弱みはフォローすれば、大多数の健常者の同意と理解が得られやすいのではないかと思います。
- 障害者を抱える親御さんあるいは家族の苦勞が先行して訴えられるあまり、先の津久井湖での事件のような考えも生まれる可能性はある。人として同じ場面で協調しあえる存在である事を分かり合える何らかの施策が必要です。
- 健常者向けの「障害への理解と共生生活での心構え」の教育をする。
- 障害者の理解から障害者支援へと結びつけていくことが、必要かと思われます。障害者の理解には、「知的障害」「精神障害」等の特性や支援の方法などを広く機会をとらえて周知する必要があります。
- 学校だけでなく、市民への教育。鎌倉歴史文化交流館での教育。
- ボランティアの教育。
- ボランティアをするにしてもその為の知識、やり方を学ぶ機会が必要だと思います。
- イベント参加・ボランティア参加等で障害児・者と触れ合う機会を作った方が、学校で行われている福祉教育が生きるために必要なことなのだと子どもたちが実感できるようになると思います。
- 障害のある方々がごく身近に社会参画している機会、場面を行政が主催する催しにて頻繁に遭遇することは効果的啓蒙につながると考える。
- 福祉施設などのファシリティは一般に目につかないことも多いので、広く市民への啓蒙活動はより充実させるべき。一時期、一部の市議会議員が熱心だった気がするが、今ではだいぶトーンダウンしている印象。行政はより継続的に取り組むべき。たとえ薄くても長く。
- 障害のない人への人権の平等への理解促進。
- 専門家だけではなく、一般市民を多数巻き込んでいかないと、自己満足の政策に終わってしまう。一流の観光地を目指していくためにも、普及、啓発は欠かせない。先進他市町村を見習うべきである。

【教育について】

- 中学校での支援学級の充実だと思います。
- 子どもの学年があがると軽度の支援が必要な子どもの行き場が難しいように感じます。
- 小学校も支援学級がありますが、学区の小学校になかったり不便ですよね。当たり前で学べる働けることが大切ですよね。
- 障害のある子どもたちへの支援を充実させることが、その子の長い将来への助けになると思う。
- 学校、医療機関、施設などで出来る限りの自力、自立活動への可能性を見つけ周りの人へ説明する機会を与える。
- 公立の小中学校全校に、支援学級の設置と、インクルーシブ教育。(最終的には大阪の大空小の様に、支援級が無くて

も受け入れられるのが理想ですが)

- 障害児保育の充実。
- 教育の充実。
- 難しいと思うが、できる限り支援学級だけではなく、同一クラスとするなど。10歳くらいまでは、どうなるかわからないと思う。
- 障害者の児童に対しての個別の教育支援、早期の学習によって、社会への適応性がかなり変わって来ると思います。

【各種施設に関して】

- 障害者就労施設の充実。
- 施設の充実。
- 色々な障害に対して支援できる福祉施設を増やしてみてもいいでしょうか。
- 障害者に対する差別のない福祉施設等の充実。
- 支援施設の経営は厳しいものがあると聞く。スタッフも皆さん熱い思いをもって取り組んでおり、障害者の方とともに喜んだり悔し涙を流したりしている。障害者の方の特性に合う仕事を探したり、障害者への教育をしたりと、人手も不足している。スタッフもボランティアのように働いている。ぜひ、支援施設への十分な補助を期待する。また、障害者受け入れの企業や公務員の仕事を増やしてほしい。
- 障害者施設で働いておられる方々の雇用状況（賃金アップや、雇用者の増加など）の改善が必要なのではと、考えております。そのことが、障害者の皆さまの障害者施設での、より良い環境に繋がって来ると思います。

【ニーズの把握】

- 障害者の意見を良く聞き、それに基づいて説明を行い行うことを決定するのが良いと思います。障害者に対してあまり過保護にならないよう、このままだと街中が病院になってしまいます。
- 市内で障がいを持つ方とそのご家族が一番求めているものは何かを聞いて、それを皆で共有出来るような場をもってはどうでしょう。
- 身障者とその家族の真のニーズの把握、スピーディーな対処…私は現在40代、身障者の兄弟がいます。長らく鎌倉市の福祉に携わりお世話にもなってきました。その中で感じるのは上記2点の大切さです。
- 現状を把握し、障がい者側のニーズとそれに応えられる環境作りが大切だと思います。
- このようなアンケートでも構わないので、障害者やその家族が、今、なにを必要としているのか、健常者の意見ではなく、障害のある当事者達から意見を聞くことが大事なのではないのでしょうか？
- よく分かりませんが、障害者、健常者両方の意見を幅広く聞いて、色々なことに取り組んで欲しいです。
- 障害も「程度」「種類」ですべてを同等に語ることは出来ないと思いますので、「種類」「程度」「在住者」「観光者」等の実態調査を行い、そのうえで優先順位を検討するのが良いのではないのでしょうか。

【生活・就労支援について】

- 家族への寄り添い。
- 保護者に対しての精神的なケアも必要なことだと思います。痴呆症の老人も同様、身近に相談できる窓口を設けるのもいいのではと思います。
- 障害児・認知症患者の居る家庭への人的・経済的支援。補助者となる家族の自由時間を作るため。
- 障害のある家庭への経済・精神的な支援にもっと力を注ぐべきです。適切な賃金で働ける場をもっともっと増やして欲しいです。
- 引きこもり、発達障害、自閉症など、身体的でない障害を持つ者たちが、それぞれ集まる機会を多く設けてほしい。お互いに知り合えば、自分たちで、集まりを継続したり、活動を作っていくことができると思う。引きこもり女子会とか、アスペルガー限定お茶会とか。身体的障害者に対しても多く外出の機会を設けてほしい。
- 予算をあまりかけずに済むような、市民主体の活動の側面支援。
- 就労機会の拡大対策と周囲への啓発。
- 可能な限り、障害者自身の自立心（自律心）を涵養する仕組みを創造しながら、社会に役立っているとの認識を持た

せる必要があります。

- 障がい者採用を推奨する企業への助成金。
- インクルーシブ教育により、障害がある人の就労の幅が広がることも期待できるのでは。
- 軽度の障害者の雇用受け入れなど、市と企業とが就労相談をする機会を定期的に催す。
- 障害者の市職員雇用の増加。
- 就労実態調査を行う。労使双方へ定期的なアンケート又は現状の改善等に対するレポート提出により改善点をはっきりさせようと定期的なサポートを行っていく。
- リモートワーク／ホームオフィスのパッケージ化。リモートワーカーとして働きたい環境を支援して作製・パッケージ化し、鎌倉市在住の人（これは障害者も健常者も区別せず）をリモートワーカーとして雇った場合の利点をアピールする。シェアオフィスの設置や必要な機材の貸し出しなどができる環境を推進。
- 障害者施設の充実と従事者の雇用確保と仕事量にあった報酬を支給すること。
- 障害者の作業所などを設ける。
- 働き方改革の視点で、自宅での仕事が出来るような仕事づくりが大切だと思います。
- 身体障害のような目に見える障害以外に、認知症など高次脳機能障害に対する支援の充実を。目に見える障害は助けてくれる人もたくさんいます。また元気な高齢者を要介護にしないための介護予防も福祉として大事だと思う。
- 障がい者のためのトランスポーテーションの充実を行うこと。
- 就労に必要な知識や能力の向上、職業訓練等の支援、適性に合った仕事の提供、障害に配慮した職場環境の設定、同僚など周囲の理解。

【共に生きる環境づくりについて】

- 保育園に障害を持ったお子さんがいますが、子どもたちが自然にお手伝いをしたり、声かけしたり。まさにそれが社会の理想だと思います。
- 障害者と健常者の垣根を取り払った福祉施策の推進をお願いします。
- 障害のある方の社会参加の機会を増やす。
- 障害のある方の社会参加の機会を増やし身近な存在にすること。
- 障害や老人を区別して困うのではなく、広くごちゃまぜにして社会みんなで共有できる社会の実現に向けて、頑張っていてほしい。
- 障害があるなしに関わらず、ともに気持ちよく暮らせる街の充実、公的機関の横のつながり、公共施設の設備の充実等。
- 金沢の佛子園のまちづくりのようなところを実現させたい（社会福祉法人佛子園）。
- 地域の各種催しに参加できる仕組みを作る。
- 障害者が一人でも健常者と同様の暮らしができる社会の実現。
- 障害者も健常者も集まりやすい、ハブ的な場所を作るべきかと思います。課題を洗い出す上でも、今後についての情報を集めやすい、交流しやすい場所を作ることが第一歩かと思います。
- 市民への啓蒙と理解を深め、市民全体で養護できるような政策を行う。
- 障害者と健常者が同じ土俵に立って、楽しんだり競い合ったりできる政策に力を入れていただきたいと思います。
- 障害者の社会参画の一層の推進。
- わからない。ただ、市民の意識が変わることで障害のある人が過ごしやすくなるのでは。主に、ハード面の整備が追いつかない部分はカバーできるかと思う。そのためには学校教育も大事なことで、社会には様々な障害のある人がいて当たり前のこととして、なるべくみんな一緒に育つ環境であるといいのでは。
- 家の近くに『おおぞら園』という施設がございます。多分障害者福祉施設だと思うのですが…。障害を持つ方や御家族だけで固まってしまうと、近隣住民と施設に通っていらっしゃる方が交流する機会を設けても良いのではないかと考えております。何かお手伝い出来る事もあるかも知れませんので。
- 障害のある人もない人も共に参加できるイベントを増やす。
- 障害者と健常者が共にいられる居場所づくり。自治会単位あるいは行政支所単位で交流の場を持つ。
- 障害者向けの「健常者との社会生活に必要な知識とルール」の教育をする。

- 参加しやすい実地体験の機会を多く行う。

【政策・行政関連】

- 障害者認定の簡素化。
- 支え合いや心遣いなどのソフト面を重視しつつ、適切なハード面の整備を進める。
- 障害支援者を公費で養成し資格を与え積極的に支援活動が出来る環境を整備する。
- 市内に障害福祉施設がありますが、不足している件があれば関係者と協議の上補充してすべきだ！
- バラマキではなくハコモノだけではなく、バランスのとれたハード/ソフト両面の対応を、潜在的ニーズに応じて提供。その効果を、人的・経済的に測定し改善を図ること。
- 鎌倉市としての独自性よりは、障害のある方が暮らせる一般的な環境作りでは。言い方が難しいのですが、過剰な対応はある意味差別しているともとれるので。
- 市民の為の施策と観光客の為の施策は異なるはず。要因の分析などマーケティングの手法を活用すべき。
- 市の職員でうまくいかないのであれば、プロのコーディネーターに投資して介入してもらうのも1つの手段では無いでしょうか。
- 鎌倉市の財政水準では要望は難しい。
- 現在の委託相談支援事業を充実させるため「知的障害者」「精神障害者」「発達障害者」「高次脳機能障害者」に専門医による相談のコーナーなどを設けて定期的に支援する。障害関係者の行動費等の支援には、地域包括センターや社会協議会を通じて共同募金を募るなど自治会に協力要請することも必要なのではないでしょうか。
- 行政としての目標と現実とのギャップの市民への周知を進め、市民の具体的な支援（協力）推進事項の共有化を進める。
- 他の地方自治体が実施して成功しているものを真似する。
- 相模原市の障がい者福祉施設でおきた事件が二度と起きないように、障がい者だけでなく施設に勤務している職員の待遇改善や、障がい者に対する意識向上に努める政策を進めてほしいです。
- 障害者の公共施設における要望を的確に把握し、特に交通関連施設の充実について積極的に関わりを持つことが重要。（財政面等の制約あるので、国、県民間団体等との協調）
- 市の予算と職員、推進する指導者とサポーターなど人的な問題でしょう。
- 予算の配分の仕方が判らない。なにを基準に予算配分されているのか。
- 障害者施策は3年に一度見直されます。それに対し鎌倉市の人事施策は、健康福祉部長は1年で障害者福祉課長は2年で人事異動です。障害者施策の国の動向等に関して鎌倉市の人事異動では対応できない。これを見直さない限り何を言っても無駄だと思います。
- 老々介護の鎌倉市民が増えている中、家庭や親族に障害を抱える家族が増えてきており、障がい者をかわいそうな人との見方以上のより身近な方と思えるようになってきている。大変に良いことと思う。上から目線での支援でなく、人としての尊厳を尊重した上での対応をお願いしたい。鎌倉市の障害福祉施策には、特に、金や給付で障害者が幸せになると思わないでください。
- 今現在の市役所の福祉の窓口はなんか雰囲気も悪いです。暖かさが感じられない。とりあえず、そこに配属されたからやってます感が出ています。
- 困ってる人に声を掛けたり、手助けしてくれるような人を配置してもいいのでは？と思います。とにかく、市役所の職員はフレンドリーではない、親切ではない、役人気取りのような気がします。モニタリングしたほうがいいと思います。
- 組織を縦割りではなく、いろいろな課（こども福祉、まちづくり課、公園、道路、環境整備、開発、生活、税金など）と連携し、産まれてから死ぬまでのライフステージにあった福祉ができるようになるとういと思う。
- 観光客の分散（鎌倉駅近辺は特に人が多く障がい者の方は移動に苦労していられると思う）。
- 障害者福祉課の予算と人員の拡充をすること。今のままでは支援活動は期待できない。業者への丸投げではいけません。それに鎌倉市の福祉業者は信頼できるところが少ないのが現状ではないでしょうか。
- 鎌倉市の職員の方々は一生懸命だと思います。ですが優先順位のつけ方とスピード感には合格点を付けられません。民間企業と違い利益第一を求められていないので仕方がない部分もありますが、もっとシビアに仕事をしていかないと、市民に愛想を尽かされます。松尾市長を動かすくらいの心意気で熱く福祉に取り組んで頂きたいと思います。

【その他】

- 障害者発生の予防対策。
- 現在の鎌倉市の障がい者の雇用率、福祉施策と進捗状況、鎌倉市役所の障がい者雇用率等が分かりませんので今後に対するコメントはできません。
- 障害者には、寝たきりの方、車椅子を使用されている方、精神的な障害の方、自立している軽度の障害の方など、さまざまな程度がある。それを十把一絡げに「障害者福祉対策」と質問されても答えに窮する。もっとターゲットを絞って設問をすべきである。このようなざっくりとしすぎるアンケートの形式自体、鎌倉市が障害者対策をきちんと行っているという事実を露呈している。もっときめ細かに、障害の程度を分類して、再度設問を検討してからアンケートをしてください。さもないと無意味です。
- 私自身がもう少し鎌倉市の実態及びなぜ今のままなのかを勉強したいと思います。
- 残念ですが知識不足のため、これといった意見を持ち合わせません。

この度は、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

「障害のある人もない人も、だれもが一生にわたり、健やかで安心して地域で暮らせるまち」を将来目標として、障害者福祉に関する施策を推進していきます。

今回のアンケート結果と皆さまからいただいたご意見は、今後の取り組みや、平成30年度からの新しい障害者福祉計画策定の参考とさせていただきます。

鎌倉市 経営企画部 秘書広報課 広報広聴担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

TEL 0467 (23) 3000 内線 2506

FAX 0467 (23) 6505

e-mail : emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp